



“ 週初めのミーティングで「学び」と「気づき」をシェア ”

毎日の生活の中で

こんなことを意識してみませんか？

メモ欄は週間目標の記入等にご活用ください



社員教育へのご活用は
こちらから



ニューモラル

心のクローバー



第 4 週

不可能を可能にする 思いの強さ

アメリカの野球史上、空前の打者といわれたベーブ・ルースが、ある試合で満塁の走者を置いて打席に立った時のことです。すでにツー・ストライクを取られ、勝つか負けるかの瀬戸際に立たされました。その時、彼は突然、バットでセンター後方のスタンドを指し、ホームランを打ち込んでみせるとアピールしたのです。次の打球は見事なアーチを描いてスタンドに消えました。

良くも悪くも人は自分の考えが、そのまま行為となって表れる生き物です。置かれた状況の中でどのように考えるかで、その人の持っている力が発揮されます。緊張や危機の重圧に押しつぶされない思いの強さが、不可能に思えることも可能にしてしまうことがあります。



MEMO

メモ

第 3 週

人々に満足と 安心を与える

世界の小売王といわれている、多くのチェーンストアを成功させたアメリカの J・C・ペニー氏は、人からその経営の秘訣を問われると「私は、別に何もしてはおりません。ただ、マタイ伝第七章十二節にある“人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたたちも人にしてやりなさい”という、聖書のゴールデン・ルールをそのまま実行しただけなのです」と答えたといえます。

相手に満足と安心を与えることに努力した結果、ペニー氏は成功できたといえそうです。同じ出会いや仕事であっても、どのようにすれば相手が安心するか、相手にとって便利であるかを思いやる心があるかないかで、仕事の結果は大きく違って来るのではないのでしょうか。



MEMO

メモ

第 2 週

目に見えなくても 通じる心のありよう

私たちは日ごろの小さな行いと同じように、いえ、それ以上に、目に見えない心のありようは無視しやすく、気づかないものです。形の上では良いことを行っているように見えても、心の中を見つめてみると、「自分を良く見せよう」「相手に嫌われたくない」「恩を着せておこう」などと、自分の名誉や利益のため、という気持ちが知らず知らずのうちに働いていることがあります。

心のありようは目に見えなくても、相手の心には必ず通じるものです。その結果、形の上では良い行いをしているも、動機・目的が悪ければ、相手の心には「見えっ張りだ」「恩着せがましい」「へつらっている」などという思いを起こさせることにもなります。



MEMO

メモ

第 1 週

動物園の象の 学習性無力感

ある動物園の子象は、柵の外に出たい一心で、何度も乗り越えようとしますが、柵があるためできませんでした。やがて挑戦することを諦め、柵の中だけで生活するようになりました。それから月日は流れ、立派な大人の象に成長しました。柵も悠々越えられるほど大きくなったのですが、乗り越えようとしません。結局その象は、その後も柵を乗り越えようと挑戦することもなく、そのまま一生を送ったということです。

同じようなことが、私たち人間にもあるのではないのでしょうか。簡単に乗り越えられる柵なのに、過去の失敗した経験にとらわれ、つい難しい、できないと考えてしまったり、諦めたりしていることが意外と多いのではないのでしょうか。



MEMO

メモ